

令和4年度 第2回伊勢市産業支援センター運営協議会 結果概要

1 日 時：令和5年2月17日（金）10：00～11：30

2 場 所：伊勢市産業支援センター 研修室

3 出席者：委員8名

事務局 商工労政課：東世古課長、南

産業支援センター：澤村 元センター長（代理）

欠席者：6名（奥山委員、美濃委員、木本委員、牛場委員、雲井委員、松井（柁）委員）

4 概 要：内容は以下のとおり。

<委員の委嘱期間>

委嘱期間は、センター設置条例に2年間の規定があり、令和5年1月1日から令和6年12月31日までとなっているが、これまで議論いただいているとおり、センターは令和5年度末で廃止を予定していることから、センターの廃止をもって委員解嘱となる。

<新たな委員の紹介>

新委員 美濃委員

（1）議題

①正・副会長の選出について

会長 石川 順子 様

副会長 美濃 松謙 様

※副会長は、本人ご欠席のため、正式には次回改めて決定することとなった。

②令和4年度事業概要について

産業支援センター担当より資料1・2に基づき説明

（主な意見等）

- ・東京で開催された展示会に参加したが、WEB参加が増えている状況かと思う。今後、WEB上でのPRが重要になり、プレゼンの仕方や対面での資料とは異なる資料の作り方などの指導のニーズがあると思う。
- 首都圏や関西圏において情報工学に関する大学が増えると新聞に載っていた。その代わりに、その学科の学生には一定期間の地方へのインターンシップが課される。最近、長期のインターンシップを採用している大学が増えており、卒業論文はなく地方に行ってきたさいというもの。しかし、企業は受け入れるための宿泊施設がない。大学がない地方に学生を呼ぶことは大変苦勞する。地方では実家に近い学生を呼ぶしかない。伊勢の企業はこの地方の学生にPRしないといけない。学生をUターンさせる手立てとしてならないか。

- ・三重大大学の学生が来てもらえない。北勢や県外に行ってしまう。センターの企業説明会で継続してPRすることで、先輩社員が大学の後輩にPRすることもできると思う。
- ・12月17日に30代土業による無料相談会を開催させていただいた。
ハローワークから聞いた話であるが、ハローワークで仕事を探すために登録されている方は、60%以上が45才以上である。特殊な技能を持っている方はすぐに見つかるが、45歳以上となると難しい。ハローワークだけでなく、関係機関との連携すれば、マッチングの機会が増えるのではないかな。
- ・よろず支援拠点では、伊勢商工会議所と連携して、伴走型の支援を行っており、成果が上がっている。
- ・帰ってきたい子（学生）もいるが、企業が求める人材が分からない、イメージがわからないなど、ギャップがあるのではないかな。例えば、ある専門職の方でも業種が異なる企業でも部署によって必要としている場合もあると聞く。必要としている企業が分からないので、そういう募集サイトがあるとよいのでは。
- ・市の補助金を活用して、伝統工芸品のパンフレットを4000部作成した。このパンフレットは、名簿変更と協会のホームページに繋がるQRコードを掲載した。また、内宮前にある岩戸屋店舗内に伝統工芸品ギャラリーを設けていただいた。岩戸屋では販売せず、パンフレットの配布をお願いしており、問合せがあった場合、パンフレットの伝統工芸師に直接連絡していただくようにしている。

③令和5年度事業実施計画の概要（案）について

産業支援センター担当より資料3に基づき説明

（主な意見等）

- ・実施計画の中で進めていく支援として政府がやっているのは創業支援だと思う。三重TLOでは、これまで大学生の起業支援にお金が出ていたが、小学生の起業支援を進めようと計画を進めている。
- ・伊勢商工会議所青年部が小学生を対象に職業体験事業をしている。
- ・職業体験や企業説明は分かる。起業となると何かアイデアを出して会社を起こすことになるため、小学生には厳しい印象である。
小学生の起業のための計画づくりの材料を探している中で、三重県には起業の代表者として御木本幸吉氏がいる。御木本氏は産学連携や真珠の養殖、また起業者でもある。全国でも名だたる人物であるので、少なくとも三重県の子供たちに知ってほしい。
起業に対する助成金も色々出ている。起業といっても、既存企業の新分野への進出に対しての支援も考えられる。政府の施策について、今取り組んでいくことを中経局の方を講師に招いて勉強会をしていくのもよいのでは。
- ・小学5、6年生の時に感じたことはずっと思っていて、その思いに進んでいくこともあり、大事にしてあげたい。伊勢っ子育て事業も小学5、6年生を対象に

伊勢を学んでもらっているが、この子たちは中高生になった時に自分の方向性をもって意思が高くなっていた。子供たちにとって、そのような場を与えられることが大事で、外（市外県外）に出た時も、故郷への思いに繋がるのではないかな。起業もそのような機会を作ることが大事だと思う。

- ・ 中学校の出前授業に行った時に、男女に分かれて会社を作る話をした。男子はこれまでの経験から物事を考え（塾の会社をつくる）、女子は枠にとらわれずに夢を描く（無人島を買う）など、男子と女子では考え方が異なっていた。
- ・ 起業する大学生のアンケートによれば、自営業者の息子が多い。公務員の子供はそういう発想にはならない。小さい時から親が出資したりするのを見ているからだろう。

→ 指定管理第1期では、毎夏、小学生向けの起業講座をしていた。また、第2期では、鳥羽商船での起業講座の実施を行っていた。これまで、商工会議所でも創業の相談で補助金等の取り方などの支援を行ってきたが、伊勢ならではのエッセンスを盛り込んだことをしてこなかった。今後は地域ぐるみの取組も支援の一つとして有りかと思う。

- ・ 子供は伊勢で頑張っている大人と関わることで、伊勢の子供だと意識を持ってくれる。子供たちは子供の頃を思い出して、何年か先に故郷に恩返しがしたいと思うし、帰りたいと思うのではないかな。関わるのが大事である。
- ・ 小学生の頃は夢がある話をしているが、高校生になると現実的な話になる。親が公務員になれと言う。これは親の影響が大きい。親の意識を変えていく必要もあるのではないかな。
- ・ 就労支援で、学生の支援も必要であるが、女性の就労支援も必要だと思う。人口が減っていく中で、子育て中の方への支援などをしていかないと社会が回っていかなくなる。

→ 育児・出産で休暇制度がある会社はよいが、離職された方が社会に復帰するためのセミナーをハローワークと連携して商工労政課労政係で実施している。今後、子育て世帯が利用される福祉施設へ情報発信をしていきたい。

- ・ センターは方向性が決まっているが、利用できる間に何かできないかな。昔、菓子コンテストが行われたが、運営協議会として何か子供や女性のことでできたらと思う。

（３）報告

① 令和４年度伊勢市支援事業について 資料４・５に基づき説明

（主な意見等）

- ・ 原油高騰の支援は、１回きりか。また業種は絞っているのか。介護施設は。

→ １回きりで、業種は絞っていない。福祉施設は別メニューでも支援している。

- ・ 50人規模の施設であるが、電気代が月に80万円が180万円になったと聞いている。製造工場ではさらに高額な費用がかかっている。ある会社では自家発電を入れたほうが良いと判断しているところもある。１社ではできないが、市内の数社

が集まって発電所をつくるなどを促す補助を出すとよいのではないか。

②産業支援センターの今後のスケジュールについて 資料6に基づき説明
(主な意見等)

- ・廃止について新聞にも掲載された。センターは廃止されるが、ソフト面の支援はどうしていくのか。

→資料4にもあるように、商工会議所、商工会とも連携し各種支援を行っているところであるが、利用が進まない事業もある。昨年から商工会議所、商工会と4回ほど協議・検討を行っており、令和6年度の予算編成が令和5年度の秋頃であるため、5年度上期には支援方法や支援体制等を決めていきたいと考えており、皆さんにお示ししたいと考えている。

- ・その際には、委員の皆さんのご意見を伺いたいと思う。

(4) その他(その他の意見)

- ・令和5年度で廃止となるが、このまま粛々としていくのか、一花咲かすのか、皆さんのご意見を伺っていると、これから何か考えていくということでよいのか。

- ・知らぬ間に廃止されたより、一区切りとして何かをしていきたいと思う。

- ・もう一度、この場所を再認識、訪れてほしいと思う。

→この施設が今後どうなるかによるが、状況を見ながら相談させてほしい。

- ・皆さんと相談しながら進めていきたい。

- ・今年も30代士業相談会をしたいと考えている。保育士さんや看護婦さんと呼んで、子育て世代に向けたことをしたいと考えている。

- ・ものづくりや産業に関わりのない方にも来てもらえる仕掛けができればと思う。

<閉会>